

R7.11.17
ヒトツナ研修会

非言語期の発達と支援

～発語レディネスを支える視点～

こども言語相談室cotocoto
言語聴覚士西野しょうこ



自己紹介



- **西野章子** 言語聴覚士（国家資格）
- 総合病院にて20年間小児から成人の言語訓練・嚥下訓練を実施
- 行政委託として健診・発達相談に従事
- 長崎大学子どもの心の支援に関わる高度人材育成プログラム講師
- 長崎リハビリテーション学院非常勤講師
- 放課後等デイ・こども園 スーパーバイザー
- 2021年 こども言語相談室cotocoto開業
- 2024年 ことばと学びの教室コトコト開設
- 専門は小児の言語発達全般・構音指導・摂食指導・吃音・学習支援

ことばの教室コトコト

子どもたちが自分の力を
のびのびと出し切って
人生を味わい尽くすために



子と言葉を
つなぐ

特性を
味わいに
変える

子どもと
その家族の
ストーリーを
応援する

未発語の子どもと関わる悩み

- 毎回「なんとなく関わっている」感じがする
- 目標設定が曖昧で、成果が見えにくい
- 言語の前段階（共同注意・意図の読み取り・やりとりの芽）をどう評価すればいいかわからない

ことばは教えるのではなく “育つ”

- 子どもが安心してことばを発するには、土壌が必要
- もともとある力を発露させる
- 土壌であるレディネス



2025/11/16

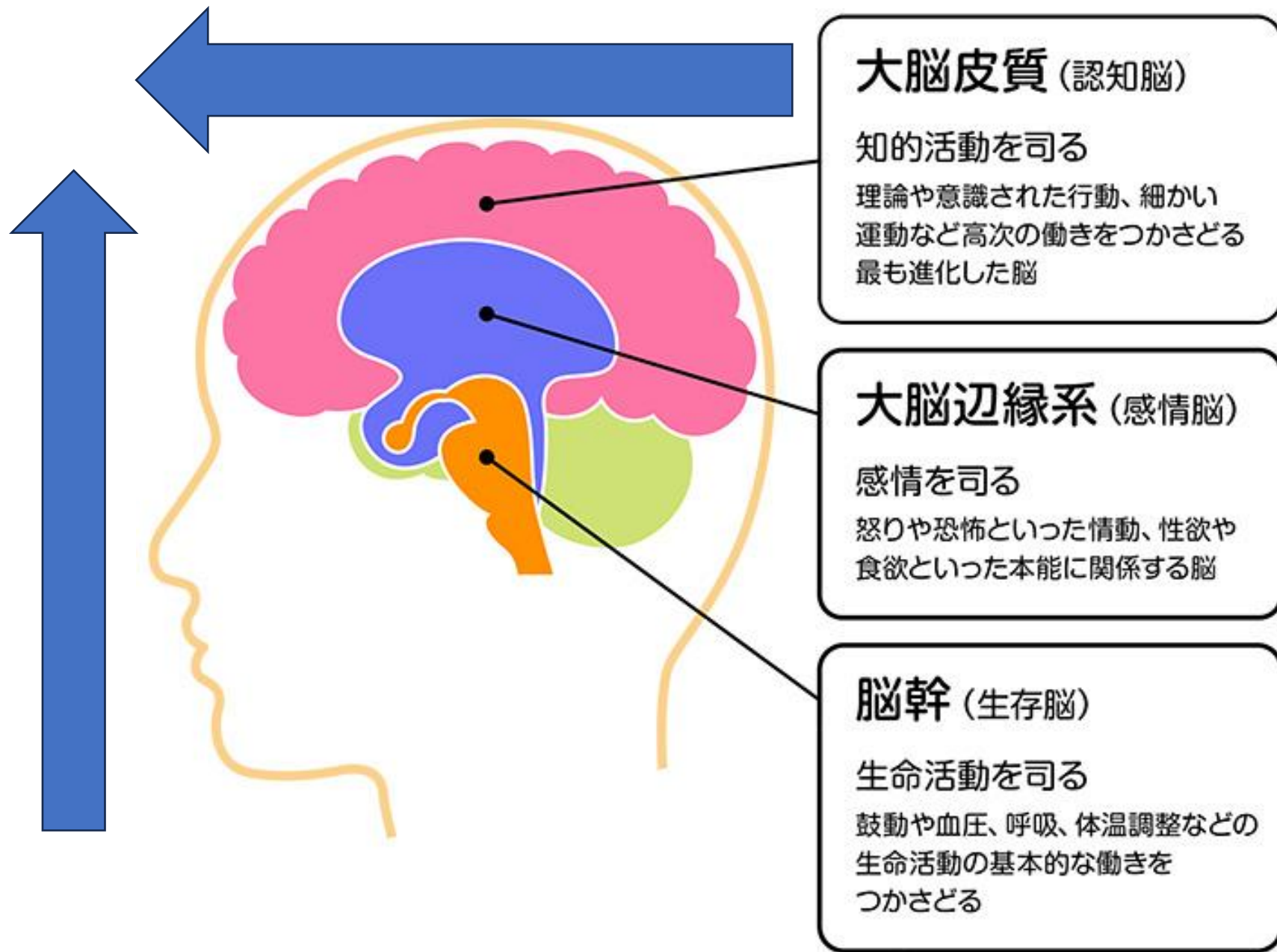


©cotocoto

身体を整える

- 生活リズム
- 衣食住
- 身体のケア
- 保護者のケア

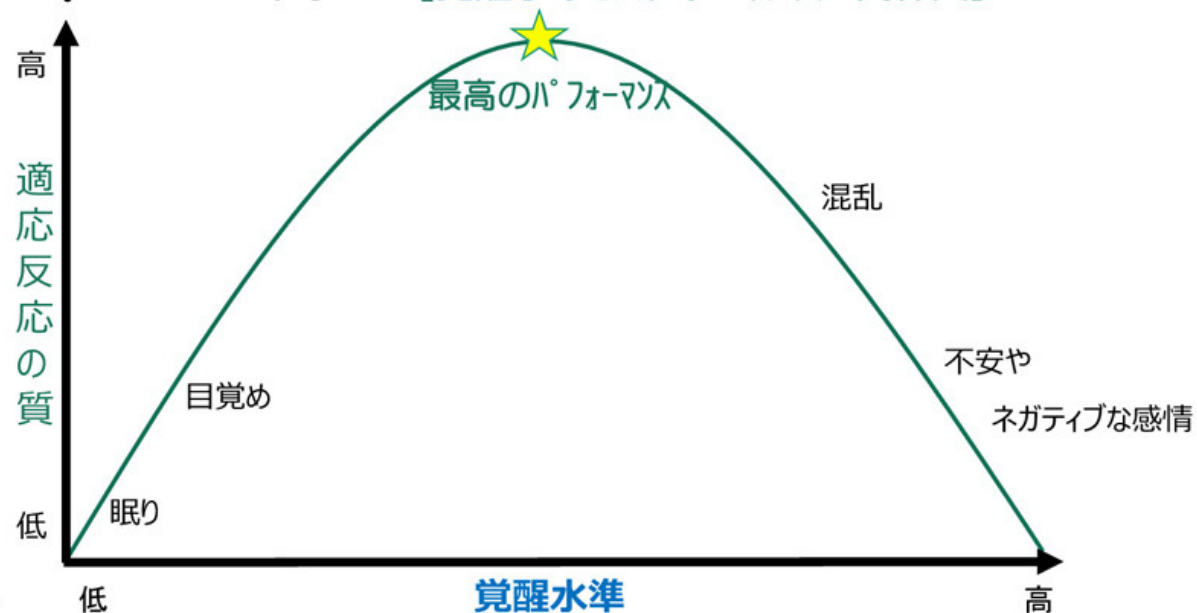
機嫌のいい身体作り
健やかなものを健やかに育てる



まずスイッチを入れる

覚醒水準のコントロール

【覚醒水準とパフォーマンスの関係図】



＜低い覚醒を高める関わり方＞
早く高い声のトーン、
指先でのタッピングやくすぐり、
素早く、不均一な動き、
視覚・聴覚刺激の大量入力

＜高い覚醒を沈静化させる関わり方＞
落ち着いた低い声のトーン、
背中等へぎゅーっと広い面積の触圧覚、
ゆっくりと、一定のテンポの動き、
視覚・聴覚刺激の制限



第一章：言語発達

- 子どもたちのことばの育ちや支援で、どのようなお悩みが？

よくあるお悩み

- 1. 何を目指して支援すればいいのかわからない
- 2. 発語が出ない原因がわからない
- 3. 非言語の子への関わり方がわからない
- 4. 遊びが広がらない・続かない
- 6. 指差し・ジェスチャーがなかなかできない
- 7. 成長がゆっくりで “効果が見えにくい”
- 8. 家庭との連携がうまくいかない

発語が出ない（遅れる）原因6つ

- ① 言葉の材料の問題（理解・認知）
 - ② 伝えたい気持ちの問題（社会性）
 - ③ 口をどう動かすかの命令の問題（運動プログラミング）
 - ④ 口そのものの動きの問題（口腔機能・構音）
-
- ⑤ 音の入力の問題（聴覚）
 - ⑥ 声が出にくくなる環境・情緒の問題

発達のリディネス

- ある学習や発達の課題に取り組むために必要な心身の準備状態
- 発達のスタートラインに立てたサイン
- ことばが出る前に育つ「非言語的コミュニケーションの土台」
- 見る・聞く・模倣する・共同注意・ジェスチャーなど
- これらが整うことで、発語がスムーズに立ち上がる



包丁の握り方が自然に安定したり、材料の見分け方が分かってきたりして、“さあ、いよいよ料理を作れるぞ”という状態がリディネス。

言語発達のレディネス

- ① 視線・顔認識（見る力）
- ② 聞く力（選択的注意・声の弁別）
- ③ ターンテイキング（やりとりの順番）
- ④ 状況の予測（anticipation）
- ⑤ 社会的微笑（社会的応答性）
- ⑥ 模倣（音声・動き・表情のコピー）
- ⑦ 共同注意（Joint Attention）
- ⑧ ジェスチャー・表情による理解（受容言語の前段階）

①②アイコンタクト・選択的注意

- 生後すぐに母親の顔を見る
- 人の顔を識別し「重要な他者」を学ぶ
- アイコンタクトは口の形・表情から言語情報を得る手がかり
- 周囲の雑音から「人の声」を選んで聞く複雑なスキル

視覚

- 新生児の視力は0.01 生後半年で急速に発達
- 目の前の物をまんべんなく見るわけではない
- 視覚的に注意をひきやすいモノとそれ以外を分けている
- 図と地の弁別
- 視覚的な知覚の恒常性



聴覚

- 胎児期から母の声を聴いている
- 乳児は高音域の声を好む
- ゆったりしたシンプルな声
- 明瞭な声
- 抑揚のあるイントネーション
- マザリーズの特徴



乳児が注視するもの

- 動くもの
- 白黒のコントラストが強いもの
- 輪郭線があるもの
- 複雑なもの
- 特に人の顔を注視する（目や口が正面を向いた顔のパターン）



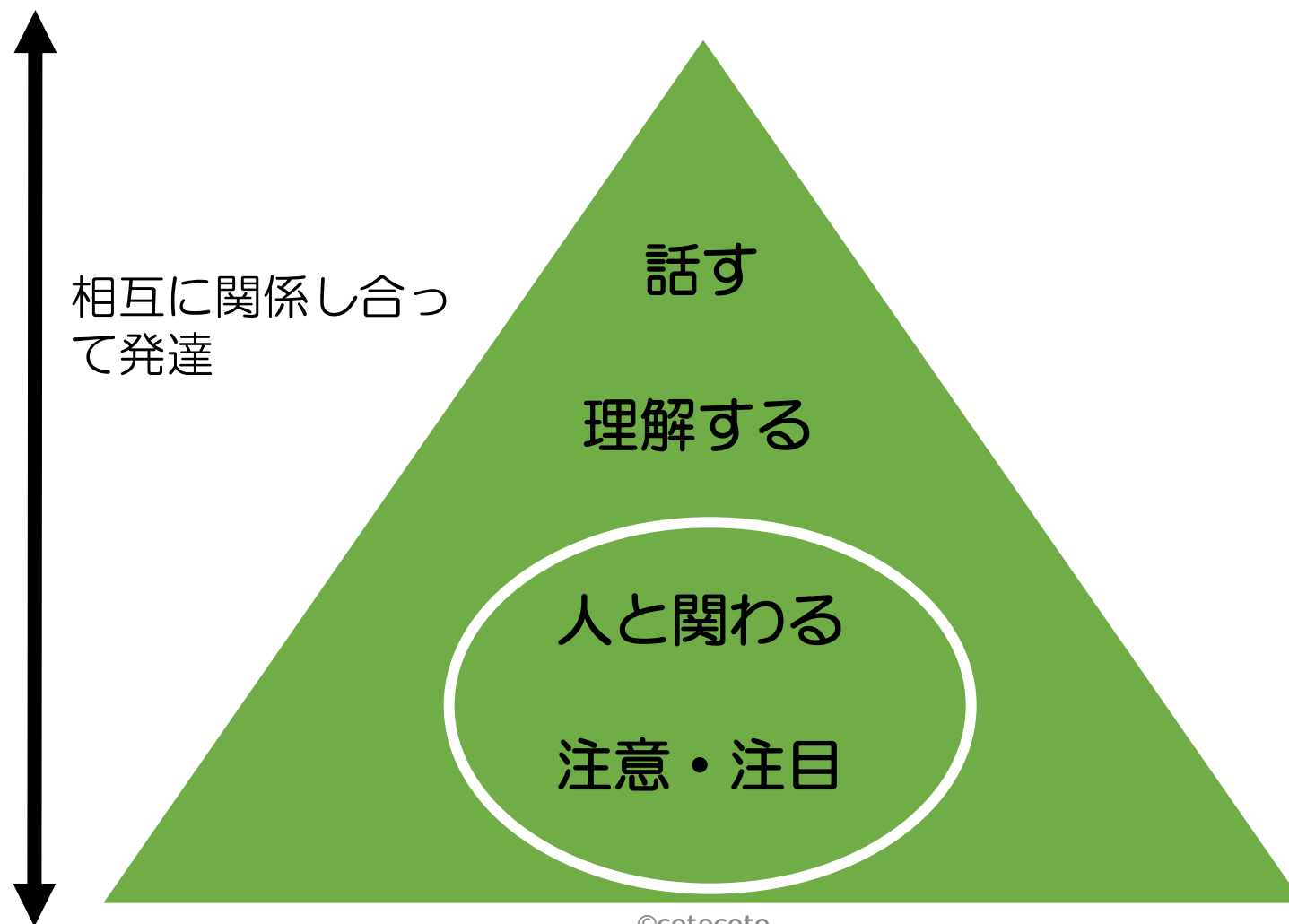
注意を向けるための工夫

- 顔の近くにモノを持ってくる
- いったん消えて「ばっ」と出す （いないいないばあ作戦）
- 好きな感覚入力をしながら
- 指差しは子どもに見えやすい場所から

③ ターンテイキング（やりとりの順番）

- 新生児期から「順番」は育ち始める
- 親が赤ちゃんの音・動きを解釈し、返すことで成立
- 親が「反応のための間」を作り、赤ちゃんも応答を学ぶ
（4か月頃喃語が重ならなくなる）
- やがて音→行動→ことばへと交互やりとりが発達

言語獲得のピラミッド



④予想（状況理解のはじまり）

- 3ヶ月頃：特定の音（風呂の水音・近づく声）に反応
- 状況理解・表情やジェスチャーへの敏感さが育つ
- 早期から「表情や動きに意味がある」と気づき始める

こうしたら、こうなる

- いないいいないばあ
- 生活のルーティーン
- 玄関に行って靴を履く→「おでかけするんだ！」
- 音楽が始まる→「おあつまりがはじまるんだ」

⑤社会的微笑

- 生後6週間頃から笑顔が出現
- 3ヵ月頃口を開けた大きな笑顔になる
- 大人の反応を引き出し、社会的交流が加速
- 大人が「返してくれる相手」とのコミュニケーションを強化

感情の理解

- 3カ月の赤ちゃんは笑顔をよく見る
- 1歳頃、ママの表情から安全かどうかを察せるようになる
(笑顔で喜び安心・怒り顔で怖がり、悲しむ)



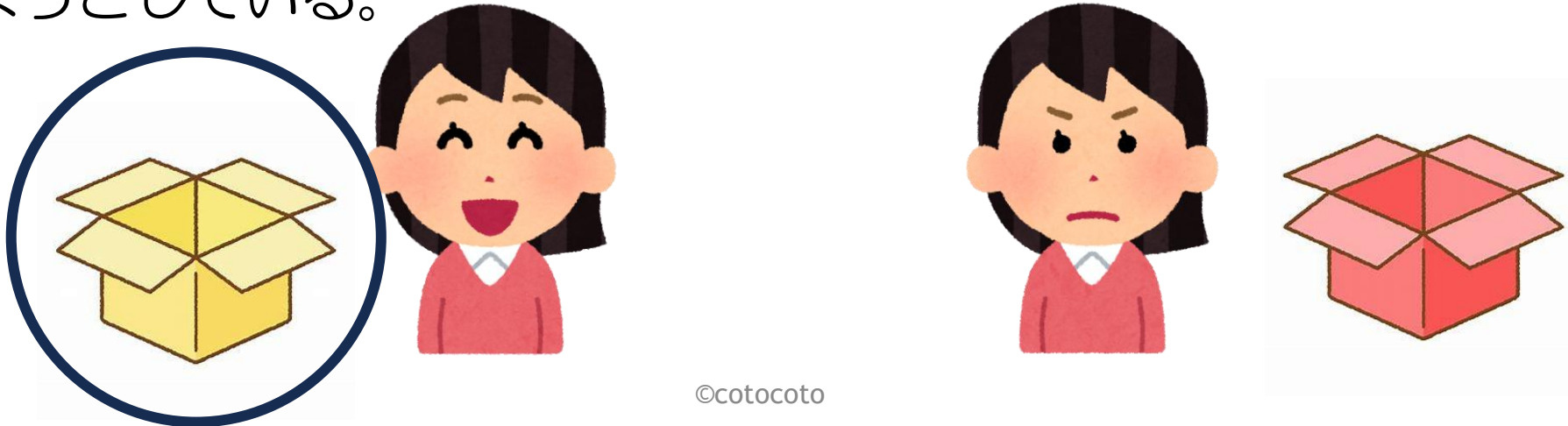
2025/11/16



©cotocoto

感情を表しながら関わること

- 2歳の子どもに、大人が「怒り顔」／「ニコニコ顔」で「tomaを探しにいこう」と、無意味な言葉を聞かせた。
- 子どもは「ニコニコ顔」をしたものを「toma」と認識した。
- ポイント
子どもは大人の表情や感情の表れを手がかりにして、物や言葉の意味を理解しようとしている。



⑥模倣

- 9ヶ月頃：手拍子・遊び声（唇を鳴らす・咳・ブルル）が模倣可能
- 模倣は協力・社会的交流を促進
- 言語発達が進むと、単語・文の模倣へつながる基盤

模倣の発達

- 新生児：新生児模倣
- 8～12か月：即時模倣
→初めて見る手の動きをその場で模倣できる
- 1歳～1歳半：遅延模倣（ごっこあそび等）
→観察した行動を記憶して再現するプロセス。観察から得た情報を時間が経ってからでも再現できる能力は、日常生活における学習に重要

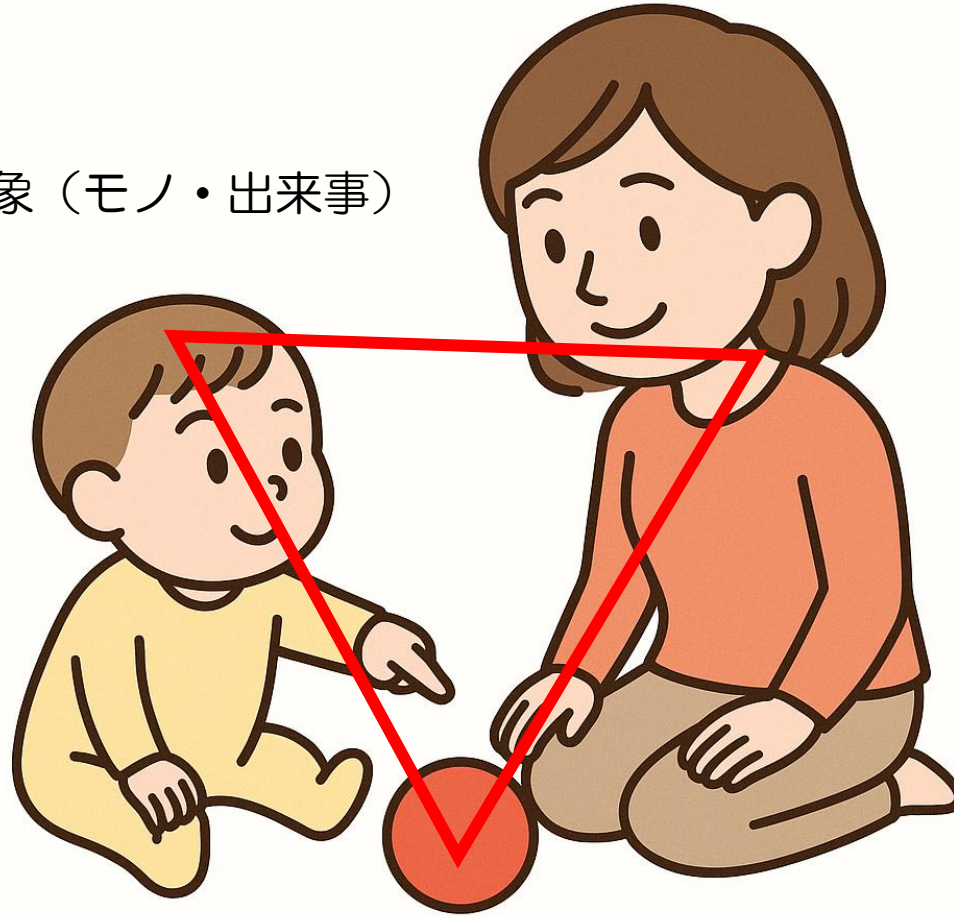
⑦共同注意（Joint Attention）

- 他者の注意を追い、その人の視線・指差しを共有する力
- 興味のある物へ大人の注意を向ける力
- 12ヶ月までに指差しが出現（叙述的／要求／応答など）
- 指差し経験が「物に名前がつく」機会を増やす
- 言語スキルと非言語スキルは相互に関連して発達

指差し＝三項関係

三項関係：
大人（他者）／子ども／対象（モノ・出来事）
この3つが関係し合う状態

言語発達の重要項目




共同注意

- 生後半年：
対面する相手が右を見れば右、左を見れば左の方向
- 9カ月前後：
相手の顔や視線の方向、指差しを手掛かり
その人が注意を向けている事物に自分も注目するようになる
- 1歳代：
他者の指差しに従う
自分のうしろの少し離れたところを振り返ってみる
共同注視ができるようになる



指差しの発達

- 
- 興味（自発）
 - 要求
 - 叙述（共感） ← 三項関係の成立
 - 質問
 - 応答

- 18か月までに叙述の指差しがない場合、人や物への気づきにくさ、気持ちの共有しづらさ、伝える力の伸びにくさなどのサインになるかも

⑧理解（受容言語のはじまり）

- 1年目は、視線・表情・ジェスチャーなどの環境手がかりで理解が進む
- 12ヶ月頃：「いいえ」「バイバイ」を理解
- 大人の話すスピードが速すぎると、理解が追いつかないことが多い

言語表出のメカニズム



幼児への語り掛けの基本

ゆっくりした速度、強調された抑揚、高いピッチ、リズム
言葉の繰り返し、単純な文型
プラス1ワード

おいしいおいしいね～

あついあついよ～



※ご注意
言語発達の段階によって
有効な語りかけは変化する
(いつまでもこのままではない)

ことばのシャワーにご注意

- ・話しかけることは大切だが、「一方的に浴びせるだけ」になってしまうと逆効果になることがある
- ・子どもが返事をするチャンスがなくなって、「聞くだけの人」になってしまうかも。
- ・理解が追いつかないと、混乱したり、聞いていないように見えることもある
- ・大事なのは「やりとり」ターンテイキング

⑧表現（非言語→発語へ）

- 乳児は視線・表情・体の動き・発声・ジェスチャーで表現
- 12～15ヶ月頃：初語が出現
- ことばの前に「伝える意図」がすでに育っている

子どものサインをキャッチして返す (応答的な関わり)

- いつも大人から「さあ遊ぼう！」と声をかけるのではなく、子どもが出している小さなサインに気づく
- まだことばになっていない、指さし・目線・体の向き・声のトーンなど、たくさんの発信に気付く
- 興味を示さないものを無理にすすめるより、「これ好きそうだな」と思えるものを一緒に楽しむ方がやりとりが広がる

インリアル 基本姿勢SOUL

- **Silence**：静かに待つ

すぐに声をかけず、子どもが自分から動き出すのを待つ。

- **Observation**：じーっとみる

「今、何をしようとしてるのかな？」と、子どものしぐさや表情をよく見る

- **Understanding**：気持ちを分かろうとする

「泣いてるけど眠いのかな？」「手を伸ばしたのは欲しいってことかな？」と、気持ちを想像してみる

- **Listening**：耳を傾ける

ことはだけでなく、声のトーンや体の動きなど、小さなサインにも耳をすませてみましょう。

12ヵ月

2
~
6

15ヵ月

10
~
20

18ヵ月

50語

語彙爆発



二語文

36ヵ月

1000語

24ヵ月

200~
300語

レイトナー

- 聴力、認知発達、運動発達、社会性などに大きな遅れがない

- 2歳代で
- 単語が50語未満
- 二語文がない

- 診断名ではなく、臨床上の説明として使われる用語
- 半数以上は3歳ごろまでに自然に追いつく
- 残りの一部はその後言語発達遅滞や発達障害につながるケースもある

言語発達に課題がある9つのサイン

1. アイコンタクトが短い／ほとんどない
2. 社会的微笑で応じない
3. 喜怒哀楽の声のバリエーションが乏しい
4. 喃語が少ない
5. 表情やジェスチャーの模倣が少ない

言語発達に課題がある9つのサイン

6. 声やジェスチャーで注意を引かない

7. 見せる／指差す／相手の関心を共有しようとししない

8. 共同遊びを楽しみにくい

9. 表情・声のトーンの違いへの反応が弱い

発語レディネスに課題があると・・・

- 行動：うまく伝わらないことでフラストレーションが増える
- 遊び：自発的な探索・楽しみが育ちにくい
- 社会性：相互交流・妥協・社会的規範の理解が難しくなりやすい
- 言語：理解の遅れ・単語・ことばによる表現が遅れがち
- 注意・集中：活動の持続が難しい

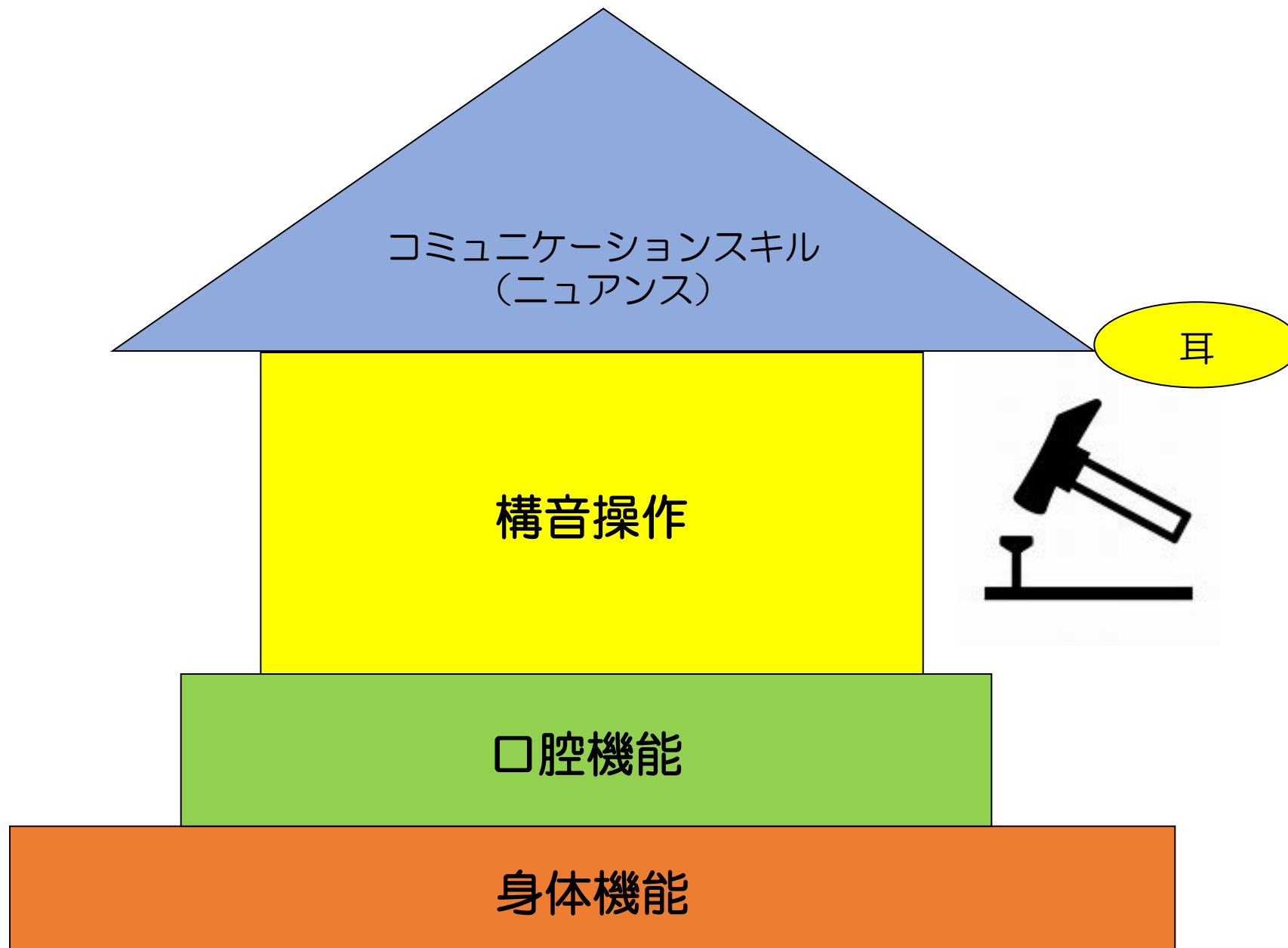
発語レディネスを育てる関わり

- 毎日いっしょに遊ぶ
- 日常行動を言語化し、言葉と体験を結びつける
- テレビ・音楽などのバックグラウンドノイズを減らす
- 顔を見て話す（口型・表情が見える）
- 子どもが理解しやすい簡単な言葉を使う
- 子どもの視線をたどり、見ている物に言葉をつける
- 声のトーンを変えて注意づけを行う

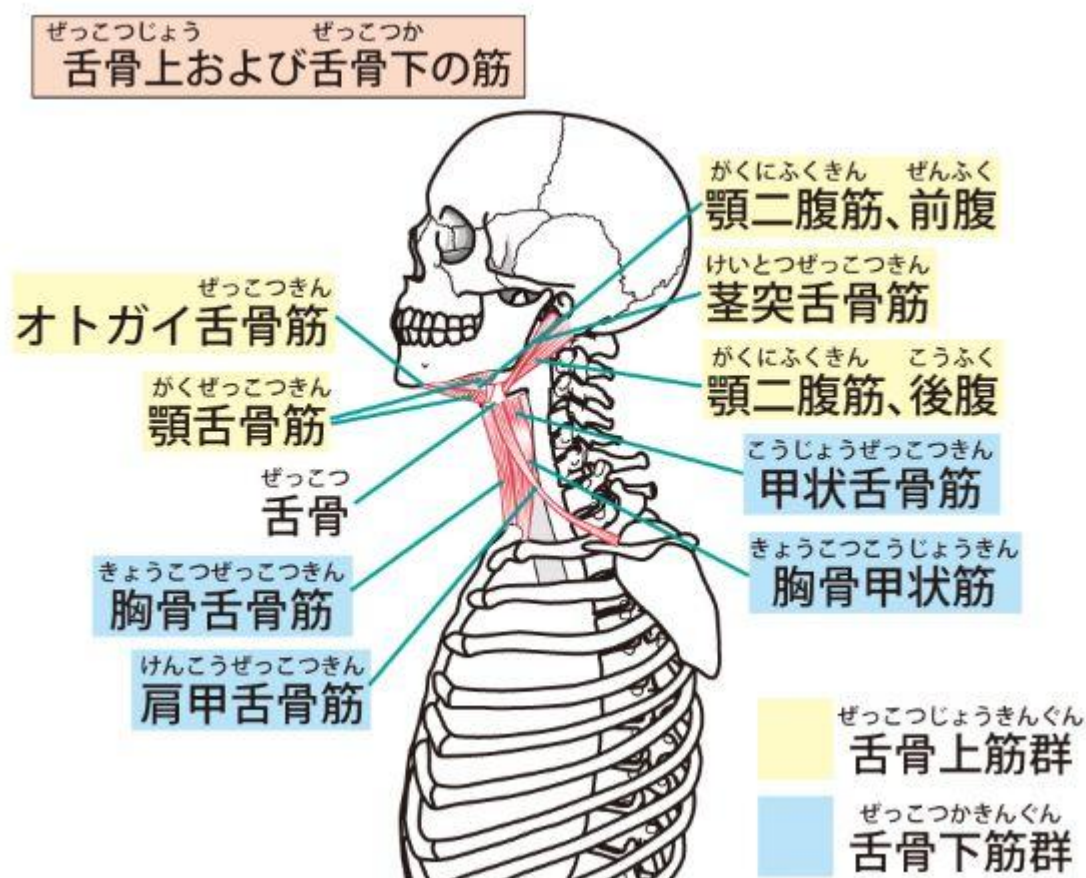
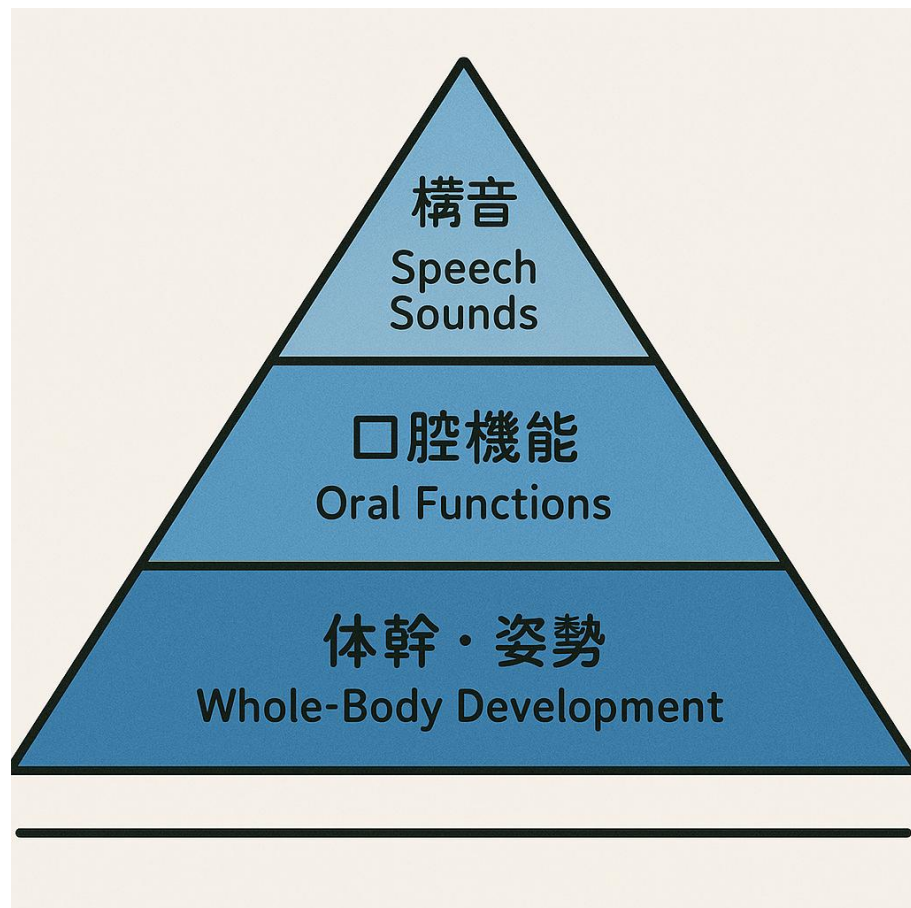
発語レディネスを育てる遊び・活動例

- いないいないばあ：アイコンタクトの促進
- おもちゃを顔の横に持ってくる：顔を見る経験
- 帽子・メガネ・スカーフ遊び：視線誘導
- 一緒に環境音を聞き、音について話す
- 絵本読み（1-2ページでもOK）
- 追いかっこ・くすぐり遊び・かくれんぼ
- 手遊び歌・童謡（アクションや緩急をつける）
- 順番遊び：ボール転がし、交代で積み木

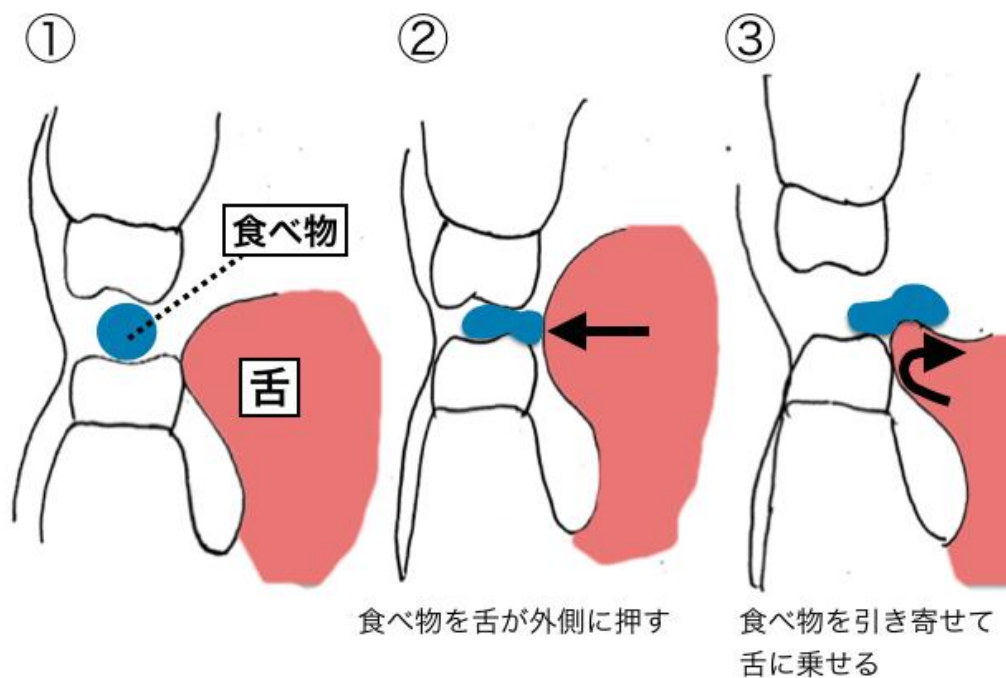
構音



口腔機能発達の全体像



臼歯を使っての咀嚼



- 食べ物が落ちないように舌縁部で支える

↓

- 頬で押して舌の中央に寄せる

↓

- 唾液と混ぜながら再び舌縁部で臼歯に乗せる

頭的位置がズレると口腔もズレる

- 姿勢

⇒そり腰

⇒仙骨座り

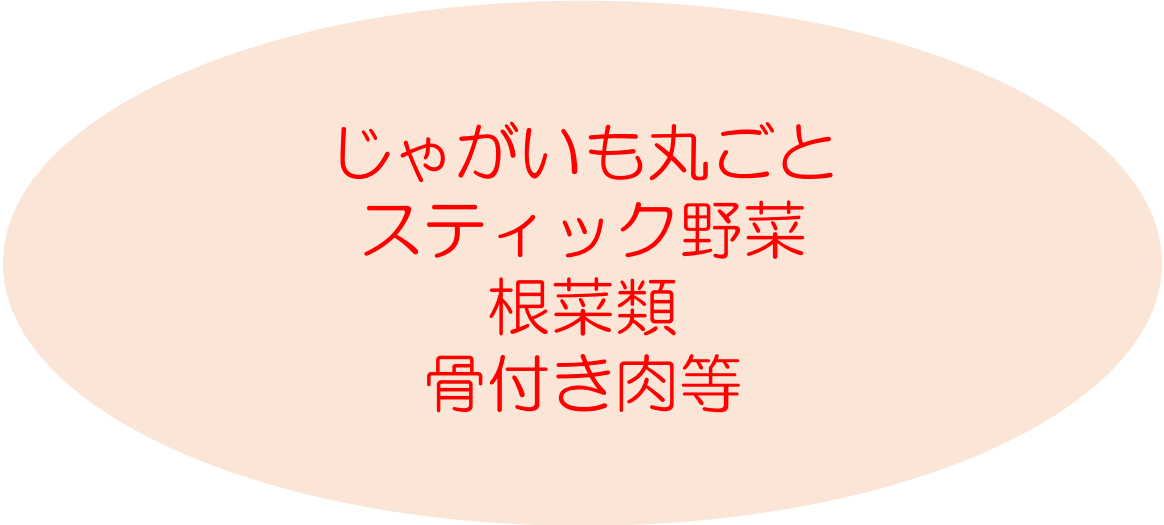
⇒首が前に突き出す

⇒顎が上がる



かじりとりが摂食の流れをつくる

- 前歯でかじる
- 舌で奥歯茎に送る
- 頬と舌で抑える
- 顎を回旋させて咀嚼する
- 寄せ集める
- ごっくん→息を吐く



じゃがいも丸ごと
スティック野菜
根菜類
骨付き肉等

介助方法

- 口の手前の方に置く（奥まで入れない）
- スプーンの先にややこんもり
- まっすぐ入れて、上唇が下りてからまっすぐ抜く
- 口の前で待たない
- 正中を向かせる
- 足の裏がつく椅子
- シリコンのエプロンは△

運動プログラミング

- 頭の中では言いたいことがあるのに、口がその通りに動かない
→ 「りんご」と言いたい脳が「舌をこう動かして、次に唇をこうして...」という指示を出すその指示がうまく組み立てられない

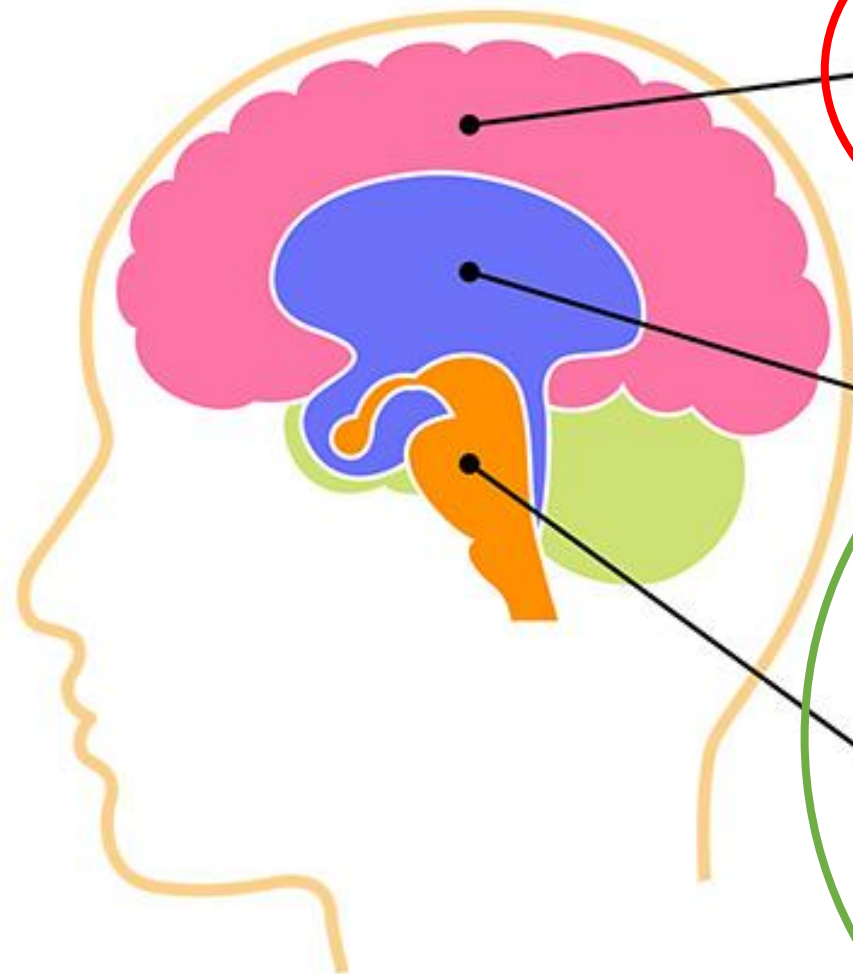
誤解

- ✕ 「舌や唇の筋力が弱いのか？」

→ 筋力の問題ではない。口の使い方のプログラミングの問題。

- ✕ 「練習すればすぐ改善する？」

→ 単純な繰り返しでは変わらず、運動学習の考え方に沿ったアプローチが必要。



大脳皮質 (認知脳)

知的活動を司る

理論や意識された行動、細かい運動など高次の働きをつかさどる最も進化した脳

発話プランニング
の中枢

大脳辺縁系 (感情脳)

感情を司る

怒りや恐怖といった情動、性欲や食欲といった本能に関係する脳

身体リズム・情動・
フレーズが
発話プログラミング
の負荷を下げ、
外部のガイドとなる

脳幹 (生存脳)

生命活動を司る

鼓動や血圧、呼吸、体温調整などの生命活動の基本的な働きをつかさどる

発語プログラミングを助けるポイント

- 決まり文句（新しいプランニング不要）
- インパクトのあるリズム（小脳が助ける）
- 情動的な高まり（辺縁系が発動）
- 動作とセット（運動前野の負荷が軽くなる）

おすすめフレーズ

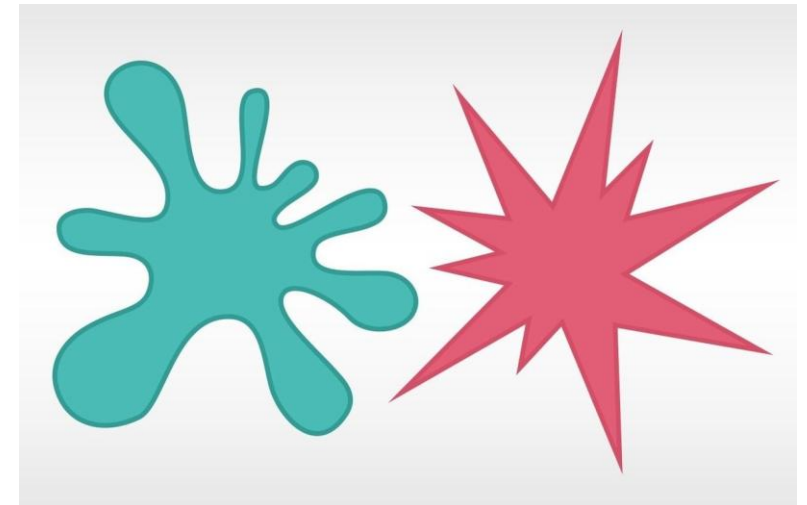
- ① しゅっぱつ～「しんこー！」
- ② いち・にの～「さーん！」
- ③ よーい...「どん！」
- ④ せーの！「ぽん！」
- ⑤ （ジャンプしながら）「ぴょーん！」
- ⑥ 「やったー！」（ガッツポーズ）
- ⑦ 「がんばれー！」（手拍子に合わせて）

視点が行動を変え、行動が結果を変える

- 赤いものの探し：選択的注意
- ピグマリオン効果：育ちへの信頼が、育ちを支える現象
- ゴーレム効果：見限りのまなざしが、育ちを止めてしまう現象

Bouba-Kiki効果"（ブーバ・キキ効果）

- 音と形の感覚的な関連が人間の認知にどう影響するか
- 言語音（音の響き）がどのように視覚的イメージと結びつくかという実験
- 色鮮やかな世界で生き、色鮮やかな未来を作る子どもを。



光を当てて「ある」ものを育む

- 子どもは、話し始める前から「伝えたい」を持って生まれてきます。そして、我々のまなざし・声・笑顔は、ことばになる前の“ことばたち”を育てています。
- 「ことばが遅い＝特別な場所での支援」ではなく「今、この子はどんな風に世界とつながろうとしているのか」を見つめることで、今ここでできる育ちの応援方法が見えてきます。
- 見えない育ちに光を当て、「ある」ものを大切に育んでいきたいと思います。



ことばの教室コトコト



- オンライン相談
- オンライン研修
- 個別言語訓練
- 園・クリニックでのことばの教室